

人と魚と海のネットワーク  
**香川県漁連ホームページ**  
<http://seaclub.power.co.jp/>  
 E-mail:gyoren@power.co.jp



**JF** 高松市北浜町 8 - 25  
 TEL 087-825-0350  
**J F 香川漁連** FAX 087-851-0699

## 第4回ノリ共販開催

1月11日に第4回ノリ共販が開催され、共販枚数1億7,588万枚、共販金額18億7,783万円、共販単価10.67円であった。

予想では、前年度の共販枚数(約1億7千万枚)を大幅に上回るのではと共販事業部では満を持していたが、年末から年明けにかけての寒波の影響で、摘採出来ない日もあり、予想をやや下回る枚数となった。全国の様子は、海苔ジャーナル等のノリ情報紙によると、昨年、海況不振に見舞われ、不作に泣いた九州・有明海区をはじめ、全国どの地区とも年内生産は順調で、各地区とも前年実績を上回っている。平成13年度の年内共販は27億枚で、平成7年度の28億枚に次ぐものである。さらに、12月末現在の累計共販金額は365億円に達し、平成4年度の375億円に次ぐもので、9年振りの好成績である。

年明け後の状況については、全国的に寒波の影響で、摘遅れや一部で芽流れが見られるとの情報もあるが不詳である。

本県においても強い冬型の天候が続いており、海水温は平年値を大きく下回って推移している。栄養塩は、この時期としては極端に低い漁場が多く、今後、ユーカンビアの動向によっては、さらに減少することが懸念される。

県下の生産状況は、東讃：3～4回目摘採中。部分的に色の浅い漁場が見られる。高松：直島は冷凍1回目、他は秋芽4～5回目を摘採中。伸びはいずれもやや鈍く、色は浅い。小豆：秋芽は4～5回目、冷凍は北浦・唐櫃で摘採中。伸びは秋芽は普通、冷凍はやや鈍い。色は秋芽・冷凍とも浅い。中・西讃：摘採の中心は3回目。伸び・色は箱浦を除いて普通。今後も生産者の方は栄養塩、植物プランクトン数の推移に注意しながら、ノリ生産に努めて頂きたい。

平成14年1月12日現在 **全国共販累計**

共販年度	共販枚数(万枚)	共販金額(万円)	平均価格
平成13年度	37億4,942	500億9,145	13.36
平成12年度	27億1,540	354億5,064	13.06
平成11年度	31億4,131	398億5,192	12.69

## (社)香川県水産振興協会 (仮称) 設立発起人会発足

去る12月6日(木)、水産関係5団体を統合する、(社)香川県水産振興協会(仮称)の設立発起人会が、香川県漁連5階中会議室で、統合5団体の長・県漁連会長・県信漁連会長・5ブロック会長の発起人7名が参集して開催された。

この県レベルの5団体統合は、最近の漁協合併・事業統合と併行して検討されてきたものである。

### 1. 設立の目的と意義

県レベルの水産関係団体(以下「県団体」という。)については、かねてから数の過多、業務の重複、運営の非効率等を指摘する向きがあったが、近年、水産業をめぐる環境が益々厳しさを増し、漁協の合併・事業統合等が推進される中で、県団体の整理・統合を求める声が一段と高まってきている。そこで、県団体のうち、特別法に基づいて設置されている団体等を除く民法法人(財団法人 香川県漁業操業安全協会)及び任意団体(香川県水産振興協議会、香川県水産増養殖研究会、香川県漁場環境保全対策協議会、シーフードかがわ21)について、社団法人 香川県水産振興協会(仮称)(以下「協会」という。)として統合を行おうとするものである。統合によって重複する事業の整理・統廃合あるいは事業間の連携強化により、また、役員数の大幅な削減等に伴う管理費の節減により、限られた財源の有効活用と効率的な運営が図られ、ひいては水産振興に寄与する効果の増大も期待することが出来る。

### 2. 法人の目的及び事業に関する社会経済情勢

本県水産業を取り巻く環境は、年々厳しさを増しており、漁船漁業にあっては、資源と漁獲量の減少、不況による消費の停滞や輸入水産物との競合による魚価の低迷に悩まされている。また、養殖業にあっては、魚類養殖は種苗供給の不安定に伴う魚価の乱高下等による販売不振や産地間競争の激化にさらされ、海苔養殖も常に色落ち等の危険に脅かされている。さらに、漁協の弱体化、漁業就業者の減少・高齢化に加えて、赤潮・ゴミ・流出油やプレジャーボ

ートによる漁場環境悪化など、本県水産業はかつてない難局に直面している。

そうした情勢の下、協会は、漁業生産の増大並びに漁業者の福祉の増進を図るため、栽培漁業の推進を初めとする下記の事業を行い、もって本県水産業の振興に寄与せんとするものである。

### 3. 事業の内容

協会は、上記の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 放流用種苗の放流及び斡旋、放流効果の実証並びに成果の普及に関する事業
- (2) 養殖用種苗の斡旋に関する事業
- (3) 漁業操業の安全確保に関する事業
- (4) 前号のほか、資源管理型漁業の推進及び養殖業の振興による資源・生産向上対策、就業者対策、技術開発等生産振興対策に関する事業
- (5) 流通・加工・消費対策に関する事業
- (6) 漁場環境対策に関する事業
- (7) 漁協経営・後継者対策に関する事業
- (8) その他本法人の目的を達成するために必要な事業

### 4. 設立の方法

設立発起人会及び設立総会の開催後、県知事に社団法人の設立許可を申請し、許可を受ける。

### 5. 資金確保の方法

協会の財源は、基本的に統合 5 団体の財源を承継するとともに、協会設立後は会員から会費を徴収する。

### 6. 組織

< 意思決定機関 >		< 業務運営機関 >	
総会	理事会	評議員会	栽培漁業分科会
			養殖業分科会

### 7. 今後の(社)香川県水産振興協会(仮称)設立までのスケジュール

下記のとおり、4月1日協会設立登記を目指して協議を重ねる。

- 1月25日 (財)操安協理事会(解散議決)
- 1月30日 会員となる漁連、信漁連の臨時総会の開催  
協会設立総会の開催
- 3月 (財)操安協の解散許可  
協会設立許可
- 4月1日 協会設立登記

## 「浜の笑顔届け隊」が庵治漁協を取材

平成 10 年度から全漁連と農林中金が水産業の活性化と漁協系統貯金 3 兆円達成に向けて取り組んでいる「活き活きマリン 21 運動」の一環として実施している「浜の笑顔届け隊」の一行が、12月18日~20日の3日間、庵治漁協のハマチ養殖、底曳漁業の取材に訪れた。

この「浜の笑顔届け隊」は、女優の神原郁恵さんと 20 代女性 6 名で結成されており、漁協と信用事業そして浜の暮らしや人々についてキャンペーンガールが浜の仕事・生活等を体験取材し、それを通じて漁業・浜・生活を理解していく過程をキャンペーン専用ホームページや雑誌等で全国的に紹介していくものである。

今回、キャンペーンガールの和賀井ひろみさんと、勝野由紀香さんが 18 日に嶋野組合長宅にホームステイし、てっちりハマチの刺身を食しながら養殖漁業についていろいろと話を聞き、19日の早朝、ハマチの出荷作業の見学、手伝いをした。小休止を取った後、今度はハマチの投餌作業を見学、手伝いをした。彼女達は、慣れない手つきで餌つき棒で投餌口ヘイワシを送る作業を手伝った。



ハマチの出荷作業を手伝うキャンペーンガールたち

キャンペーンガール 2 人は、「ハマチの餌にビタミン剤を添加されていることや、ハマチが規則正しい右廻りで郡泳することにビックリした」と話してくれた。嶋野組合長は、「都会の若い女性がハマチの養殖に関心を持ち、漁業者の苦労やハマチのおいしさを理解してくれることはありがたいことで、今後のハマチ消費拡大に結びつくことを期待する」と話してくれた。

19日は、このハマチの出荷と投餌体験だけで取材を終了。20日は、早朝 5 時から庵治漁協へ集合し、沖から帰ってくる底曳き漁船の魚の水揚げ作業、選別、バック建て、高松市中央卸売市場への出荷作業を手伝った後、7時から開始された漁協市場のセ

リを見学した。庵治独特のセリの掛声にびっくりしながら、クルマエビはいくらでセリ落とされたのか、カレイはいくらの値がついたのか、目をまん丸くしながらセリ値に聞きいった。その後、加工場で婦人部が行っているタチウオ・ゲタの干物加工を手伝った。朝食を取った後、岡田漁協婦人部長の漁場環境保全の為に粉石鯨普及推進運動や魚食普及推進活動、庵治生き活き日曜市への取り組み等について熱心に聞き取り調査を行った。昼からは海の神様金比羅さんへ詣で、全国の漁師の皆さんの安全祈願を行い、今回の「浜の笑顔届け隊」の庵治漁協の取材活動は無事終了した。

## オオダマ信仰について

1月1日号で紹介した「乗り初」に続いて正月行事として、かつて旧正月11日に行われていた「タマダテ」を紹介する。

### (1)「タマダテ」について

香川県では、昔は旧暦の正月11日に、タイ網やサワラ瀬曳網などの網元の家で、オオダマサンを祀る行事が行われていた。昭和30年代からタイ網の急速な衰退とともに、この行事も消えていった。この行事をオオダマオコシ、タマダテ、チョウイワイという。

三豊郡仁尾町の元網元、小山栄一郎さんの家では、今も毎年この行事を続けている。(但し、現在は家族と親戚だけで行っている)仁尾ではタマダテという。ここに小山家のタマダテの様子を記す。

正月11日の朝、床飾りをする。床の壁にエビスサンの掛け軸、床にはオオダマサンを中心にザイ、フナダマサンを祀る。三方の上に鏡餅、その上にくしガキ、ユズリ葉、前にオオダマサンのご飯をお膳にのせて供える。このご飯は、朝はヘレズイモンと焼豆腐に餅、コンブと大根・サトイモのおかずを添える。昼はナマス(大根・ニンジン)とご飯だけである。

タマダテのお供えのご飯の米は、正月2日のフネノリゾメのときにフナダマサンに供えた米を、この日までしまっておいてそれを炊く。また、米を炊くのに用いる薪は、正月元日に神棚に供えるサイワイギ(幸木)を用いる。サイワイギは、松の木を2つに割ったもので、年末に大浜の肥地木の海岸の松の木を切ってくる。

1月10日の夜、庭に大漁の<sup>のぼり</sup>幟を立てる。タマダテの日の午後、その年に小山家のタイ網に参加する船頭や網子を招いて酒宴を開く。床飾りやオオダマサンに供えた神饌<sup>しんせん</sup>はお客様が来ないうちに、家族や親戚の者で全部片付けて、食物も残さず食べてしまう。

タマダテの準備から片付けまで、すべて男が行う。オナゴシは絶対に神様のものに手を触れさせない。オナゴシはけがれているからという。これは、正月のシメカザリやフネノリゾメの仕事も同じである。

タマダテの日に、船頭や網子などは、その春のタイ網に関してそれぞれの役割や日程などを決める。また、この日の酒宴の席で、親方の杯を口にすると、この年は親方のもとで働く無言の約束をしたことになる。だから「カタメの盃」という。

### (2)「オオダマサン」について

オオダマサン(網霊様、網玉様)は、漁網に宿る大漁の神様である。瀬戸内では、網の中央にある浮子又は浮樽(ドダル、ミトダル)をオオダマサンという。オオダマサンの信仰は、比較的規模が大きい網漁師の間で根強く信じられている。例えば、総人数が60人から70人を要する網元制下のタイシバリ網をはじめ、イワシ網、サワラ瀬曳網などである。なかには数人で操業するタイゴチ網のような零細な網漁にも、オオダマサンの信仰がある。建網や手繰網のような1,2人の網にはみられない。

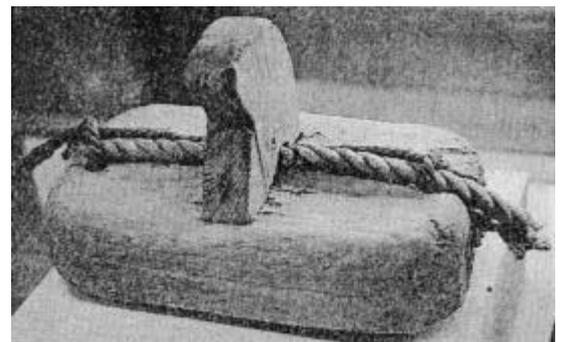
### オオダマサンの形体と分布

オオダマサンの形体には、浮子型と浮樽型の2つがある。観音寺・伊吹島・広島県の鞆を結ぶ線から以西の瀬戸内では、浮子型が中心である。

一方、小豆島・播磨灘・大阪湾・紀伊水道から太平洋岸では浮樽型が主流をなしている。そして、その中間地域の備讃瀬戸と塩飽諸島一帯は、両者が入り交じった現象がみられる。

浮子型というのは、網の中央にあるミト浮子を、大漁の神が宿るものとして祀るものである。讃岐では、ミトアバ、オオダマアバ、オオダマサンなどと呼ぶ。材質はキリの木である。このアバはほかのアバより一段と大きく、中央に烏帽子型の板、又はシュロの繊維を束ねて立てている。これは大漁の神様エビスサンをかたどっているといわれる。愛媛県では、エビスアバ、エビスサンと称している。浮樽型は、網の中央部にあるミトダル(ドダル)を大漁の神様が宿るものとして祀るものである。材質は杉又はヒノキで、竹の輪で締めている。

香川県漁業史より転載



オオダマサン(縛網等の見当浮子)